令和6年 (2024年) 1月25日 マスタープラン等の見直

将来交通像を見据え 持続可能な交通体系の実現を目指

12月6日に開催され、議案 取組 (中間報告) ---以上

建設経済常任委員会は、

その結果、議案は全て可決 告) ④藤沢市都市マスター 藤沢市マンション管理適正 地区のまちづくりの取組③ 計画の改定(素案)②村岡 7件、陳情1件を審査した。|7件について報告を受けた。| 変化に対応した交通施策を プランの改定⑤藤沢市立地 了承と決定した。 すべきもの、陳情は趣旨不 推進計画の策定(最終報 また、①藤沢市観光振興 |策定して交通施策を進めて |ションプランを27年3月に |年3月に策定し、その実施||郷土づくり推進会議との意 本的な方針として藤沢市交 計画として藤沢市交通アク|見交換等により、データ分 通マスタープランを平成26 通に関する市民意識調査、 見直しに向けた取組につい 〇交通マスタープラン等の て (中間報告) 本市は、交通に関する基 〈市の説明〉 |めながら、見直し作業を進 きた。

間報告) ⑦ふじさわサイク きた。 |近くが経過する中、 現行計画の策定から10年 交通を めてきた。また、学識経験

|ルプランの見直しに向けた|取り巻く状況は大きく変化 す を変更した。 の解消を図り、 を1つの計画で包含し、基 国が策定を促す3つの計画 本方針編と実施計画編に分

|実施するため、新たに藤沢|ライフスタイルの変化②新 したことから、社会状況の |ップ調査(※)の分析や交 |析や市民ニーズの把握に努 市都市交通計画として、令 和4年度から検討を進めて これまで、パーソントリ これらの変化に対応してい |発化---以上6点と整理し、 |地域別交通特性の傾向の顕 くことを課題と捉えている。 化と自然災害の激甚化・頻 著化⑥脱炭素の動きへの変 たな社会問題の顕在化③新 考える上で重要な変化を① 本市の交通まちづくりを

対応が可能となるよう構成 を見直すといった、柔軟な けることで、重複した構成 変化等により、施策を見直 す場合には実施計画編のみ 社会状況の より外出促進が図られ、市 |民の日常生活における移動| りまとめていく。 鵠沼市民センター・

|技術の開発と暮らし像の変|審査した。その結果、議案 化④移動の量・質の変化⑤|は全て可決すべきもの、陳 した。 情は全て趣旨不了承と決定 れた。12月11日の委員会で は、議案5件、陳情2件を 11日及び12月22日に開催さ 総務常任委員会は、12月 のと決定した。

将来交通像は、持続可能 公民館等再整備事業の検討 |状況について報告を受けた。 12月22日の委員会では、 また、鵠沼市民センター・

|な交通がつなぐ市民の幸せ||結果、議案は可決すべきも||を変えて3回実施し、 議案1件を審査した。その 5年2月以降の取組と検討 は、平日と土曜日に時間帯 の地域住民との意見交換会 状況について報告する。 |館等再整備事業を具体的に 進めていくに当たり、令和 5月に実施した鵠沼地区

|交通事業者、各関係機||な未来とした。これは、将||を支える、持続可能な交通 |議に報告し、5年度内にと|あるかといった積極的なも |及び藤沢市交通政策推進会|民として何かできることが |を6年2月の市議会定例会|しいというものや、地域住 |トや市民説明会等の意見を|拠点施設を期待するもので、 体系を目指すものである。 いては、パブリックコメン|る高さと強度を持った防災 | 今後のスケジュールにつ | 心して避難することができ | |その取組を早く実現してほ としては、津波発生時に安 |76人が参加した。主な意見 のもあった。

市交通政策推進会議を立ち|なる進展などにより、通勤

目的の移動が減少し、私事

市民等で構成する藤沢

来的には超高齢社会のさら

今回の見直しにおいて、

|家用車に依拠しなくても移 想されていることから、自 目的の移動が増加すると予

動できる交通環境の整備に

などの提案もあった。 駅自転車等駐車場との一体 に配慮した施設にすべき、 持管理コストの低減や環境 整備の検討、機能重視で維 や民間資金を活用した施設 整備による用地の有効活用

安心して避難できる施設に

○鵠沼市民センター・公民

館等再整備事業の検討状況

について

〈市の説明〉

公民館等再整備事

鵠沼市民センター・公民 合計 |れることができる施設で、 じて再整備に対して否定的 くあった。なお、全体を通 ー・公民館を望む意見が多 で親しみのある市民センタ 地域住民にとってより便利 な意見などはなかった。 庁内においては、①津波

また、隣接する鵠沼海岸

|発生時に周辺住民が安心し 地域住民が誰でも気軽に訪 機能面の要望のほかには、

機能集約、

団第4分団器具置き場の拡 救急隊待機スペース、消防 市民の家などである。 張、鵠南子どもの家、 同第2自転車駐車場、機動 望を今後につなげていく。 |催し、現在の検討状況を地 域住民との意見交換会を開 域住民と共有し、意見や要 ては、6年1月に改めて地 今後のスケジュールとし

|度に基本・実施設計、9年

想の策定、

7年度から8年 6年度に基本構

その後、

|度から建設工事に着手する

ことを目標として進めてい

|ること②地域コミュニティ |避難者を一定期間収容でき |て避難できる高さと強度で、 とともに、様々な地域活動 と③地区内公共施設の機能 の拠点となる施設であるこ るスペースを持つ施設であ ――以上3点を

複合化を検討している施設の位置図

|集約や複合化の可能性の積 地区ボランティアセンター ーの活性化や賑わいの創出 沼海岸駅自転車等駐車場、 ささえ、湘南なぎさ荘、鵠 している施設のほか、鵠沼 施設において既に機能集約 している施設としては、現 中心に検討している。 機能集約や複合化を検討

















査によると、私立高校授

業料と施設整備費の年額

地区における即時停戦を 〇パレスチナ自治区ガザ 地区における戦闘により、 人命を深刻な危機的状況 パレスチナ自治区ガザ 較すると、生活保護世帯で 等の補助を行い学費無償化 高校選択の幅が広がった。 を実現している埼玉県と比 未満の世帯まで施設整備費 しかし、年収500万円 立高校選択の障壁となっ の入学負担金もあり、私 円となることと、初年度 帯では、約47万6200 |年収590万円以上の世 未満の世帯で約20万円、 負担は、年収590万円

地に甚大な被害をもたら 道法に基づき、即時停戦 悪化しないよう、国際人 にさらすとともに、市街 これ以上、人道危機が 令和6年度予算において私 も施設設備費等の負担額年 間約27万円が必要である神 奈川県は助成制度の拡充が 求められる。 神奈川県におかれては、 業料平均額の支給、 |未満の世帯への前年度授 象の拡大等が求められる。 ている。年収590万円 料無償化世帯及び支給対 よって、政府におかれ

している。

う強く求めることを決議 積極的な役割を果たすよ 〇私学助成の拡充を求める 市議会は強く要望する。 覚書 (国宛)

約の理念にもとづいて、

基本法、子どもの権利条

ては、日本国憲法、教育

に向け、日本政府がより

学助成の拡充をするよう当

する。

〇私学助成の拡充を求め

|影響は一定程度食い止めら |度の拡充により、私立高校 に通う世帯の学費負担への 高等学校等就学支援金制 ちの学ぶ権利を保障する 改善し、全ての子どもた 公私の学費格差をさらに

増額を図るよう当市議会 |ため、私学助成の一層の は強く要望する。

正が一歩進み、

しかし、

文部科学省の調

以上、

要旨を掲載

費負担の公私間格差の是 への授業料補助額は、学

神奈川県の私立高校生

(神奈川県宛)

12月8日に開催され、議案 件、陳情2件を審査した。 教育環境や費用対効果を考慮

南校舎

況について報告を受けた。 きもの、陳情は全て趣旨了 その結果、 承と決定した。 業に係る基本設計の検討状 また、鵠沼中学校改築事 議案は可決すべ

北校舎

HH ... H. H. H. H. H.

劣化状況調査の結果、 る基本設計の検討状況につ ○鵠沼中学校改築事業に係

屋内運動場

(市の説明)

鵠沼中学校は、 第3次藤

一及び屋内運動場の劣化状況 改修を予定している南校舎 実施計画において、既存

鵠沼中学校改築事業 子ども文教常任委員会は、|沢市公共施設再整備プラン 最適な整備手法を検討 老朽化の解消、安全性の確 備第2期実施計画に基づき、 及び藤沢市立学校施設再整 6年度の3か年の予定で基 施設全体の再整備事業の実 | 部材を複数確認した。また、 本実施設計業務を行ってい 施に向け、令和4年度から を図ることを目的として、

改修から改築に整備手法案を変更=鵠沼中学校

保及び教育環境の機能向上 | コンクリートの劣化や鉄筋 | なった。このため、南校舎 | び再整備事業全体スケジュ 子ども文教 |化改修案と改築(建て替え)|修することで安全性を確保 |屋内運動場においても同様|改修は適さないと判断し、 |地中の構造体においても、 その結果、南校舎は室内や |の整備手法案である長寿命|ては、劣化部分を補修、 に、一部の構造体にコンク |のかぶり厚が不足している| |地中にある基礎も含めた構|が見込めないこと、また、 |案について工事費及び工期 |リートの劣化等を確認した。 造体の追加調査を行った。 |どの構造体の一部にコンク| 等を確認したため、室内や リートの劣化や鉄筋のさび | 工事費が改築とほぼ同等の 建物ともに、柱、梁、床な|検討を行ったところ、長寿| 調査を実施したところ、両|等の比較を行い、妥当性の 調査の結果を踏まえ、当初 |工期の比較においても長寿|だいた意見を参考に整備方 |備手法案に変更する。 北校舎と併せて改築への整 環境上の観点から長寿命化 については、経済性や教育 命化改修は改築の1・2倍 命化改修のメリットである 程度の期間を要する結果と の後、5月に想定事業費及 費用がかかり、費用対効果 引き続き使用していく。 |基本設計の結果説明会を実 |換を行い、6月市議会定例 |計内容の詳細検討を行うと | 針案の絞り込みを行う。そ |デメリットを説明し、いた |本設計の中間説明会にお |及び保護者を対象とした基 |6年1月中旬に、地域住民 |会にて基本設計の検討結果 |ともに、関係者との意見交 ールの見直しなど、基本設 | て、整備方針案のメリット、 及び保護者等を対象とした 今後の予定については、